

IV 各部・各学年・各教科の目標

1. 各部の努力目標

〈 教務部 〉

(1) 基本方針

各部・各学年並びに各教科と密接な連携をとり、学校全教育活動を円滑に推進しながら生徒一人ひとりに光を当てた教育活動が実践できる学校づくりに努める。

(2) 努力目標

- ① 行事の精選
- ② 授業時数の確保
- ③ 教育課程の整備
- ④ 諸表簿の整理保管の徹底
- ⑤ 校内研修の充実
- ⑥ 内規の整備及び内規の周知徹底
- ⑦ 進路相談支援システムの運用管理
- ⑧ P T A活動の活性化
- ⑨ 広報活動（パンフレット作成）

〈 生徒指導部 〉

教育目標・努力目標・校訓・生徒指導の基本姿勢に則り、すべての教師があらゆる教育活動において師弟同行・率先垂範を心がける。（毅然としたねばり強い指導が生徒の社会的自立を育む。）

- (1) 自発的・積極的・生き生きした学習態度の確立。じりつできる生徒の育成。
- (2) 規律ある学校生活の確立（態度教育の確立）。
- (3) ホームルーム活動・生徒会活動・部活動の指導強化。
- (4) 父母・地域社会・中学校との連携を密にする。

〈 進路指導部 〉

1. 基本方針

生徒一人一人の全人的な発達を促し、自己理解に基づいた進路指導を行う。

2. 努力目標

(1) ポートフォリオ評価ツールを活用して、進路意識の涵養と進路の早期決定を促す。

- ① 進路希望調査・学習実態調査を実施する。
- ② 学級担任との連携を密にして、LHRを通じて進路指導を行う。
- ③ 活動履歴の記録を通して自己管理能力を啓発する。
- ④ 学習環境を整え、目的意識の高揚をはかる。
- ⑤ 授業を大切にし、自宅での予習・復習の定着をはかる。
- ⑥ 特進クラスの活性化を図る。

(2) 積極的進路選択を促す。

- ① 進路講演会、進路説明会を実施する。
- ② 県内外の大学等に関する情報の収集と提供に努め、受験意識を高める。
- ③ 大学入試センター試験の受験を奨励し、各種大学への受験機会が広がるように指導する。

(3) 各種講座を充実し、学力の向上をはかる。

- ① 早朝講座（1, 2年生全員を対象とする）
 - ア. 毎朝7時40分から8時20分までの40分間とする。
 - イ. 原則として、内容は基礎的なものから発展的なものまで幅広く扱う。
 - ウ. 原則として、各学科の特性をふまえて、国・社・数・理・英の5教科を中心に行う。
- ② 課外講座（全学年を対象とし、希望制とする）
 - ア. 放課後講座・・・各学期の放課後に行う。
 - イ. 夏期講座・・・夏季休業中に前・中・後の3期で行う。
 - ウ. 3年生を対象とした早朝の時間で行われる課外講座

(4) 諸テストを実施し、その有効な活用をはかる。

- ① 全員必修の試験（小論文模試は総学で実施）

1年生	2年生	3年生
4月 第1回校内実力テスト (スタディーサポート)	4月 第1回校内実力テスト (スタディーサポート)	4月 第1回校内実力テスト (スタディーサポート)
7月 小論文模試	7月 小論文模試	5月 小論文模試
9月 第2回校内実力テスト (スタディーサポート)	9月 第2回校内実力テスト (スタディーサポート)	7月 リポート小論文模試
1月 第3回校内実力テスト (実力診断テスト)	1月 第3回校内実力テスト (実力判定テスト)	9月 第2回校内実力テスト (実力判定テスト)
2月 小論文模試	2月 小論文模試	

② 特進クラス必修模試（下記の模試は特進クラス以外の生徒も希望者は受験できる。）

1年生	2年生	3年生
7月 総合学カテスト(進研)	7月 総合学カテスト(進研)	6月 進研マーク模試(進研)
11月 総合学カテスト(進研)	11月 総合学カテスト(進研)	7月 進研総合記述模試(進研)
1月 総合学カテスト(進研)	1月 総合学カ記述模試(進研) 2月 センター早期対策模試 (進研)	9月 第1回ベネッセ駿台 マーク模試
		10月 第2回ベネッセ駿台 記述模試
		11月 第3回ベネッセ駿台 マーク模試

③ その他の希望制模試：上記①②以外にも、河合全統模試、公務員模試等を希望する生徒に実施。

〈 図書視聴覚部 〉

(1) 基本方針

- ① 本校の教育活動に必要な資料や情報を収集し活用の円滑化を図る。
- ② 生徒の健全な教養の育成を図る。

(2) 努力目標

- ① 図書・視聴覚部としての役割と機能を果たせるように図書、視聴覚資料や施設・設備機器（パソコン等）の充実及び効率的な利用を図る。
 - ア. ホームルーム活動の活性化に必要な資料の収集に努める。
 - イ. 職員研修に必要な資料の収集に努める。
 - ウ. 各教科に必要な資料の収集に努める。
 - エ. 生徒の進路決定に必要な資料収集に努める。
- ② 各教科およびホームルームの連携を密にし、施設利用の周知徹底と拡大を図る。
- ③ 図書委員会活動の活性化を図る。
- ④ ホームページを通し学校ピーアールに努める。

〈 環境保健カウンセリング部 〉

(1) 基本方針

- ① 施設・設備の整備や校内美化に努め、学校生活の環境を整える。
- ② 防災・安全対策に関し、生徒の安全確保及び学校の安全管理に万全を期す。
- ③ 保健管理と保健教育の活動を適切に行うことによって、生徒や教職員の健康を保持増進し、心身ともに健康な人間育成を図る。

(2) 努力目標

I. 環境整備について

- ① 施設・設備の拡充・整備を促進する。
- ② 校内緑化に務め、緑豊かな学園を目指す。
- ③ 美化意識を高め、清掃の習慣を定着させる。
- ④ 生徒美化委員の育成強化、月ごとの美化習慣を図る。

II. 保健について

- ① 心身の健康管理と生活の管理を行い、校内緊急体制の整備にあたる等保健管理に努める。

②個別の保健指導や健康相談、保健便りの発行を通して保健教育の充実を図る。

③学校保健・体力向上推進委員会の充実を図る。

Ⅲ. 教育相談について

①生徒・職員・家庭との連携を図り、カウンセリング情報の収集に努める。

②教育相談室やスクールカウンセラー、特別支援員の活用と充実に努める。

〈 事務部 〉

1. 基本方針

(1) 予算の経済性・効率性等に基づき、適正な執行及び授業料等の期限内納入に努める。

(2) 教育環境の整備・充実に努める。

(3) 事務の合理化・簡素化・迅速化に努める。

2. 努力目標

(1) 予算の節減等について

① 職員・生徒と協力し、電気料等の予算節減を推進します。

② 職員と協力し、適正な予算執行及び備品管理に努める。

(2) 授業料・学校徴収金について

① 学級担任・学年主任等と連携をとり、授業料等の期限内納入に取り組む。

② 長期滞納者は、管理者（教頭）・学級担任等と連携し指導します。

③ 保護者に対しあらゆる機会に、授業料等の納入に対する理解と啓発を図る。

(3) 施設・設備の整備・充実及び環境整備部等と協力し、安全点検（危険箇所・修繕箇所の把握）に努める。

2. 各学年の努力目標

〈 1 学年 〉

(1) 指導目標

① 基本的な生活習慣の確立と自己教育力（じりつの精神）を育てる。

② 将来の目標を具体的に考えさせる。

(2) 努力目標

① 基本的な生活習慣の確立

ア. 挨拶の励行

イ. 遅刻・無届け欠席・欠課の指導

ウ. 清掃の徹底

エ. 服装・容儀の指導

オ. 下校指導の徹底

カ. 携帯電話利用のマナー指導

キ. 持ち物の管理

② 学習意欲の高揚

ア. 学習する雰囲気作り

イ. 家庭学習の習慣化を図る

ウ. 課外講座や模擬試験への呼び掛け

エ. 進路の早期決定への取り組みを図る。

③ ホームルーム活動の活性化

〈 2 学年 〉

(1) 指導目標

教育目標達成に向け、中堅学年としての自覚と「じりつ」の精神に則って、諸活動を主体的、創造的に取り組む力を育てる。

(2) 努力目標

① 基本的な生活習慣の確立

ア. 考えて行動する習慣の実践指導

イ. 挨拶の励行

ウ. 遅刻・無届け欠席・欠課の指導

エ. 清掃指導・環境整備の徹底

オ. 服装・容儀の指導

カ. 家庭との連携、協力

キ. 健康管理の指導

② 学習意欲の高揚

ア. インターンシップ等による進路に関する自己適性の理解促進

- イ. 授業へ集中するための学習環境・雰囲気づくり
- ウ. 家庭学習の習慣化 エ. 課外講座受講や模擬試験等の受験の奨励
- オ. 各種データ活用による生徒の学習意欲の向上
- ③ ホームルーム活動の活性化
 - ア. 自主的、創造的なホームルーム活動の推進
- ④ 人権意識の涵養
 - ア. 他者の人格を尊重し、いじめを「しない・許さない」環境と雰囲気づくり。
 - イ. 社会的弱者をいたわる心を育てる教育活動の推進

〈3 学年〉

(1) 学年目標

充実した最終学年が送れるよう「じりつ」した生活習慣を定着させるとともに、「高い志」を常に掲げ、自己の能力や個性を伸ばして進路への展望をしっかり持たせる。

(2) 努力目標

① 基本的生活習慣の確立

- ア. 遅刻・無届欠席・欠課の指導 イ. 清掃指導・環境整備の徹底
- ウ. 服装・容儀の指導 エ. 挨拶の励行

② 進路指導の徹底

- ア. 生徒や保護者との面談を通して個々の生徒を理解し、適切な進路指導を行うように努める。(個人面談・三者面談の充実)
- イ. 家庭学習を習慣化し、各自の進路目標を達成できるようにさせる。
- ウ. 講座の受講や模擬試験等の受験を奨励する。
- エ. 進路指導部との連携を密にする。

③ 自主的、創造的なホームルーム活動の育成

④ 各行事や各種委員会に主体的に関わり、積極的に行動する生徒の育成

3. 各教科の努力目標

〈国語科〉

- (1) 自主的な学習を習慣化させ、「話す・聞く・読む・書く」などの基礎力を身に付けさせる。
- (2) 言語活動の充実を図り、論理的なものの見方や考え方、的確に表現する力を養う。
- (3) 様々な作品に触れさせることで鑑賞する力を高め、豊かな感性を養い、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を育てる。

〈地歴公民科〉

- (1) 授業→復習→予習の習慣化を図り、自主学習のスタイルを定着させる。
- (2) 家庭学習・自主学習の定着に努める。
- (3) 受験指導を強化する。
- (4) AL型授業、ポートフォリオの積極的活用を図る。

〈数学科〉

1. 指導目標・・・基礎力の充実を図り、学習内容の着実な理解を目指す。
2. 指導方法
 - (1) 1年生・・・数学Ⅰ、数学Aの基礎力を充実させて、確かな学力を養成する。
 - (2) 2年生・・・内容を精選し指導することによって、数学Ⅱの概要が理解できるようにする。
 - (3) 3年生・・・選択科目の学習を通して多様な進路に対応できるように適切な教材を選択作成する。
 - (4) 全学年共通
 - ①生徒が自ら考える習慣を身につけられるような学習環境を構築する。
 - ②学習した内容を確実に理解できるように家庭学習を促す方法を研究する。

〈 理科 〉

- (1) 自然に対する関心や探究心を高め、科学的な自然観を育てる。
- (2) 観察、実験などを通して、自然の事物・現象を身近なものとして捉えさせる。
- (3) 自然科学に対する基本的な概念や原理・法則を理解させる。
- (4) 基本的な学習態度を育成する。

〈 体育科 〉

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高める。
- (2) 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る。
- (3) 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

〈 外国語科 〉

- (1) 国際理解教育の推進
- (2) 英検の奨励とサポート
- (3) 各種講座の充実
- (4) ITや習熟度授業の効果的推進
- (5) 施設・備品管理の徹底

〈 芸術科 〉

- (1) 基礎・基本的な知識及び技術を習得させる。
- (2) さまざまな楽曲や作品に触れることで鑑賞する力を高め、豊かな感性を養い、芸術文化を尊重する態度を育てる。
- (3) 視聴覚教材等を活用し、授業内容の向上に努める。

〈 家庭科 〉

- (1) 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、生活の自立に必要な知識や技術を習得させる。
- (2) 現在の生活や生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための各自の生活目標を持たせる。
- (3) 日常生活との関わりを確認させながら、家庭や地域社会に関心を持たせる。
- (4) ICTや視聴覚教材等を活用し、授業内容の向上に努める。

〈 情報科 〉

- (1) 情報機器や情報通信ネットワークなどを活用して、情報を適切に収集、処理、表現する力を定着させる。
- (2) 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報社会の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けさせる。
- (3) 社会で活用する力を伸ばすとともに、進路につながる職業観を育てる。

〈 国際人文学科 〉

- (1) 進路実現のための学力育成を目指す。
- (2) 基本的な生活習慣が確立した、心身ともに健全な人材の育成を目指す。
- (3) 多様性に寛容で、国際性に富んだ人材の育成を目指す。
- (4) 英語運用能力向上を目指し、主体的に英語でコミュニケーションを図る人材を育成する。
- (5) 英語検定受験を全員に義務づけ、検定対策を充実させ卒業までに全員2級取得を目指す。
- (6) 海外研修、ハイスクールエクスチェンジプログラム等の異文化交流事業を成功させるため、事前・事後指導を充実させる。

〈 体育学科 〉

- (1) 専攻実技種目（強化種目）を設定し、その高度な技能や理論と指導方法の習得を目指す。
- (2) スポーツV（野外）では1年生キャンプ実習・水辺活動（西表島）、2年生スキー実習（北海道）、3年生マリン実習（渡嘉敷島）等で、その技能の習得と自然に親しむ態度の育成、集団生活の在り方を学ぶ。
- (3) 最新の高度なトレーニング器械を利用し、科学的トレーニングによる体力、技術の向上を図る。
- (4) 健康や運動理論を探究することによって、さらに高度な運動技能の習得、実践を行い、将来の体育指導者の育成を目指し、体育系大学への進学率向上に努める。